

幸せの歌



3月18日 新規就農者と系統機関との意見交換会の様子

JA宗谷南

2016NEN
4GATUGOU
~SEASON48~

新規就農者と系統機関との意見交換会

3月18日、ホテルニュー幸林にて新規就農者及び新規就農予定者と系統機関が集まり意見交換会が開かれました。

始めに向井地組合長より、今日は相互の交流を深めると共に、新規就農予定者は、先輩方や系統機関と意見交換をしてもらって、就農にあたり不安に思っている事を取り除いて頂きたいと、開会の趣旨を述べ、国際競争に打ち勝つには、農業者が団結する事がいかに大事なことであるか、また協同組合の有利性について理解を求め挨拶としました。

次にホクレン稚内支所吉田支所長より、TPPの話に合わせてJA改革の問題が叫ばれている中、自己改革として生産者の所得向上と生産基盤の拡大を目的に色々な改革を進めている最中、今回このような意見交換の場を開いて頂き、ありがたく思いますと、挨拶を述べました。

意見交換の前に、ホクレンの行っている事業概要の丁寧な説明があり、昼食後意見交換へと移りました。



開会の挨拶をする
向井地組合長



ホクレン稚内支所
吉田支所長

意見交換会の内容抜粋

(農 新規就農者 新 新規就農予定者 ホ ホクレン JA JA宗谷南)

農 平成27年産自給飼料活動方法説明でアンモニア態窒素とカリが多くなった原因について教えてほしい。

ホ アンモニア態窒素については、サイレージの発酵過程において、不良発酵してアンモニアが出てしまった、雨の降る中収穫せざるを得ない状況があり不良発酵に至ってしまった。また、カリに関しては、粗飼料分析が年間1,500点出てくるのですが、多いのは刻みのサイレージ(MRセンター含めて)でほとんどがスラリー体系なので、そういった理由でカリが多いと予測されます。

農 私がこの数値を見て思ったのは、このデータを見る限り、近年増産していく中で、糞尿がその牧場のキャパを超えてしまった分が、アンモニア態窒素だったりカリという数値で出てきてしまっているのではないか、その結果雑草が増えてきて消化しにくい繊維が増えてきている。しかし、最近早刈りが増えてきて、実際に早刈りをしているのに消化しにくい繊維が多くなってきているのは明らかに雑草が増えてきている。北海道酪農は自給飼料が基盤となっており、どのような形態であろうが自給飼料が良くなっていくことは大切なことなので、本腰を入れて、調査や研究をして頂きたいと思います。

ホ ホクレンでも過去3年で、およそ3,800筆の圃場を調査させて頂いた結果、牧草率は40%ぐらいでした。現実的に雑草の割合が高いので今後とも調査を継続していきたいと思います。

農 ホクレンは売電できないのですか？

ホ ホクレン商事では売電の資格を取ったので、ホクレン商事で売電する可能性はあると思います。

農 肥料の取りまとめの時期がいつも忙しい時期なのですが、取りまとめの時期を変える事は出来ないのですか？

ホ 肥料の取りまとめは管内一斉推進という事で行っています、当日いなくても何度も訪問させて頂きますが、来年の取りまとめについては、JAの購買部と協議させて頂いて

て、効率よく推進出来る様に行いたいと思いますので宜しくお願い致します。

農 新規就農は既存の古い牛舎だと思えますが牛舎新設を考えても良いと思っています、ホクレンとして、新設牛舎などの融資、振興が出来る様なプランがあってもいいのかなと思っています。

ホ ホクレン単独でというのは難しい事だと思っていますので、各JAや行政と連携して考えて行きたいと思っています。

農 ホクレン油機のネットワークがもう少し良ければと思っています、その理由として壊れた機械を下げてほしいという話を、最終的に下げるのに2年かかったり、昨年春に機械を下げてお願いしたところ、雪が降ってから下げにきた。忙しいのは重々承知していますが、もう少し何とかなりませんかと、乳質についてもっとランク的な差を設ける事は出来ませんか？良質乳を生産するよう努めている方、そうでない方とがいると思えますが、もっとやる気が起きるような付加価値的なものを付けてもらえるとありがたいと思います。



ホ：まずホクレン油機の言われている事はホクレンが言われている事ですので、お詫び申し上げます、改善する様努力します。なぜこのような事が起きたかという、最大の反省は、個々は実直で誠実な職員ですが、組織で動くという事がなかなか出来ず、一人で動いているという状況です。

農：結局個人の能力は凄く高いが、その能力に頼ってしまっている状態ですね。

ホ：その通りです、アルダ稚内という展示場を運営しておりますが、展示物も担当者しか分からなく、人が運営している展示場で会社が運営している展示場になっていない状況ですので、この課題をまずは内部のミーティングなどをしてチームワークを固める事が最優先事項と想っています。チームワークが取れたらお客様に対してサービスが向上すると思っております。すぐに改善できるとは言いきれませんが、着実に改善していきますので宜しくお願い致します。

ホ：乳質のランク差については、高いレベルの管理で高いレベルの乳質をもっと評価してほしいと言っている意見ももっともでございます。直近の乳質評価では、生菌数ランク1で2円加算、ランク2で10円、ランク3で3円減算、1万4千以下を3句とも達成するとランク1となり、基準乳価より2円加算されて精算されている。逆に3句とも1万4千を超えるとランク3で基準乳価より3円安く精算されており、ランク1と3では5円の差がついています。また、体細胞数では、3句とも30万4千以下ですと2円加算、1句でも30万5千を超えるるとランク2で1円加算、3句とも30万5千となるとランク3で2円減算、ランク1と3では4円の差があり、生菌数と体細胞がランク1の方は4円加算、逆に両方ともランク3の方は5円減算で、乳質の良い方と悪い方では9円の差が設けられている対策をとらせてもらっています。

その単価が低いという意見もありますが、本来得られたのに得られなかった損失利益はJA宗谷南で29万円あり、ここを何とか全量出荷して頂いて損失無しで得られるものを得てほしい。残念ながら、全道の実態としましては十勝に多く持って行かれているので何とか乳質改善をして他の地区に持っていかなければいけない様お願いしたい。

JA：当農協としてもペナルティが去年が大体650万円ぐらい、今年が2月終わった時点で700万円近いペナルティがで

でしまっている。これは農協全体の成績が下がってしまっているという事で、合併してから昨年まで下がったことが無かったが今年下がってしまったのが残念だと思います。管内でも牛乳の生産量がほしいという事で、乳質についてあまり厳しく言わなくなってしまったものと管内の成績を見てもそう思います。その中でも当農協は管内の中では乳質が一番いいですが、やはり特定の農家がお話をするんですけど、なかなか改善されない状況にはあります。そのような方からはペナルティを頂き乳質のいい方に返している状況です。それも体細胞で20万以下、30万以下など段階的に分けて、よりいい方に多く返せるような事をしています。農協としては現状ではそれ以上の事は出来ないのじゃないかと思っております。あと、全道乳質改善協議会で決まっている通り、自主規制で50万4千を変えた場合、次の出荷の時50万4千を超えていたら廃棄してもらおうと、農協としては実際にそこまでしています。しかし、宗谷乳質改善協議会でもっとランク差をつけてほしいという意見があるという事をお伝えしたいと思います。

新：飼料等に関しまして、基金などがあり価格の高騰などに対応できることが聞けて安心しました。あとガソリンスタンド等で使えるカードで、農協に口座があれば全道共通で使えるようなクレジット機能の付いていない気軽に使えるカードというものはないのでか？

ホ：まずクレジット機能が付いていないカードというのが無くて、IZAカードと信連と提携しているJAカードがお勧めですが、あと一つポイントカードをこれからやっていく部分で、全道の農協で行っているスタンドでポイントをためて還元していくというサービスを開始しようと思っております。

新：色々話を聞きましたが、まだまだ分からない事がありました、それよりも、家の事とか色々農協にはお世話になってありがたい気持ちです。

新：新規就農者はどういう経緯でホクレンと関わってくるのか、その流れが知りたいです。

ホ：まず就農してから、農協の組合員となって、農協経由で飼料の注文だったり肥料の注文だったり、そういった所から関わっていくと思います。

新：これから、就農するにあたって乳牛の価格が高いと思っ
ています、その辺が非常に不安要素であるのですが、いざ就
農してから、価格の下落の可能性があるので、乳牛のこれか
らの見通しなど教えて下さい。

ホ：非常に相場を読むというのは難しい話ですが、乳牛の後
継牛が、道内・全国的にも今後2〜3年間は少ないという
状況が続くのではないかと統計データが出ています。そうい
う状況ですので、相場は需要と供給のバランスですので、需
要の方が、道内においては、畜産クラスター事業などで規模
拡大されている方も多くて、乳牛の引き合いが非常に強く
なっております。府県については育成牛が自分の牧場にな
い所が多く、北海道を中心に個体資源の奪い合いが残念な
がら続いています。ただ、関係機関の北海道農業公社の新
規就農者向けの助成が平成27年度から乳牛導入の助成が
10万円程引きあげられておりますし、ホクレンとしても乳
牛の増頭対策として昨年度、今年度の2力年ですが、1頭当
たり2万円の購入助成などの対策をしております。相場の
動向などは逐一指定団体情報などでご確認頂けたらと思
います。



第28回JA北海道大会 パネリスト提言

第28回JA北海道大会 パネルディスカッション
美しい農村景観の意味と価値
加工食品の材料にも北海道産

作家 エッセイスト 森久美子氏

J A北海道大会で開催したパネルディスカッションでパネリストの皆さんから提言頂きました。北海道農業とJAグループに期待すること」を前回に引き続き、紹介します。



森久美子氏

もり くみこ

作家・エッセイスト
農林水産省・食料・農業・農村
政策審議会臨時委員
北海道農業・農村審議会委員

三人目は、森久美子氏の提言を紹介します。

美しい農村景観を守る
ため輪作体系の教育を

景観について考える気持ちをお話したい。以前、写真で見た美瑛町の農村景観にびっくりした。この美しさは農業があるからこそだと気づいた。東京に住んでいたころ、実家から届いた北海道の野菜をおすそ分けをする時、食べてみないうちに北海道のでしょ、おいしいんだよね」と必ず言われた。その時、同時に農村景観の美しさや清涼な空気、広大な土地をイメージして買っていると思った。

札幌市民あるいは道民は、当たり前すぎて、農業生産が行われているからその風景だというありがたみが欠けている。

「いつまでもあると思うなこの景観」というのは、半分は冗談に聞こえるかもしれないが、かなり本気で思っている。農業が継続されないと、この景観を失い観光客も来なくなり、経済でも北海道は行き詰る。

それではどうすれば良いのか。食農教育の分野で、みなさん個人個人は頑張っているけれど、農作業のご苦労や、なぜおいしいのかという話はされるが、案外、輪作体系を教えている機会はほとんどないのではないかと。

去年と同じ農村景観を撮ろうと思うて行ったらなぜか色が違う。輪作があるからだよと都会の人たちにも教えて頂きたい。JAの力であればできるのではないかと思っ

消費者に選ばれる北海道産入りの加工食品

単身者の世帯数が全国平均で戸数として3割以上ある。生鮮食品に使う食料費が非常に少なくなっており、外食、外食以外の中食、調理済み食品に食料支出の44%を使っているのが2013年度の統計に出ている。

加工食品を食べている人たちが、どれだけ日本のものや道産のものを意識してくださるかが非常に重要。

JAグループが「丸と丸」になって、北海道産を使っているカップ麺」とか表示なり宣伝文句をつけて、その分、仮に外国産の材料より10円高くても買う、という消費者を増やしていかなければならない。

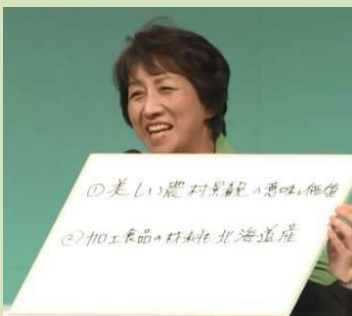
北海道の目指す農業、農村の姿ということ、550万人と共にということは大変素晴らしい。実現できるよう、私たちも消費者の一人でもあるので力になれたらと思っ

力強いだけでなく、今まで農業を続けられたご年配の方たちが、自分の人生はこれで良かった」と思うような農村を作ってほしい。力強い農業・農村には、そのことも含んでいることを意識して頂きたい。Aコープの買い物支援も含めて地域の人たちを守る、地味だけどJAだからできることをぜひ忘れないでやって頂きたい。

最後に一言

再生産できる価格で買って頂いて農業が続けられ、農村を守るために補助金を出してもらおう。国民のコンセンサスを得られるための啓蒙活動をして頂きたい。

JAグループを含め農家を守ることが、道民の健康や生活を守っていることを分かってもらうようにすることが、サポーターを育てるということだと思ふ。農業に対する理解がない人たちが誤解なく農業を理解して下さるようこれからも頑張りたい。



第28回JA北海道大会 パネリスト提言

「第28回JA北海道大会 パネルディスカッション」
「550万人と共に創る 力強い農業」と 豊かな魅力ある農
村」の実現に向けた組合員の役割

北海道農協青年部協議会 参与 黒田 栄継 氏



黒田 栄継 氏

くろだ よしつぐ

北海道農協青年部協議会 参与
全国農協青年組織協議会 参与

四人目は、青年部を代表して北海道青年部協議会黒田参与からの提言を紹介します。

「力強い農業」、 豊かな魅力ある農 村」の実現に向けた 組合員の役割

昨年、全青協会長の立場で、JAグループ自己改革の審議に関わった。その中で、国民合意を形成していくという時の世間からの風当たりは皆さんの想像以上のものがあつた。

農協改革は、なんとなく落ち着いているような雰囲気だが、5年経ったら色々また始まる。何も終わっていない。

その中で、今回の大会で何を決めて何を指すか現場の青年部としても自己改革を作っていくなかで、何をして、何を望み、自分たちは何をつくるのかを議論してきた。

やはり、農協の営農経済の事業を改めて確立していくというところになる。

北海道は、全国的にみるとダントツにできているが、改めて北海道が全国のイニシアチブをとるくらいのことをしていく。そのためには、職員、役員だけでなく、組合員がしっかりそこに気づいて改めてJAグループ全体でやるという雰囲気をつくっていくことが大事。

組合員教育という言葉に怒り出す組合員も非常に多いが、避けては通れない。私も青年部参与として関わっているので、青年部でも、しっかり共有認識をもって今後一緒に事業をつくっていくべき。

「550万人と共に 創る」

550万人と謳ったからにはかなりのことを展開しないといけない。多くの人と繋がるためには、皆が力を出していかないとけない。

組合員と一体となり、全体で前に進む姿を作っていくべき。

というのが、現場のひとりとしての決意だ。

農協は良いところがたくさんあるし、私もそれにお世話になってきた。

しかし、良いところは、実は私たちにとっては当たり前にあるもの。良いと改めて考える必要がなく、わざわざそれを褒めることも



農協改革がここまで押し込まれた理由の1つに自分たちの良さを自分たちで語れたかということがあつたかと思う。内部には気づかない。色々な人と関わることで自分たちの価値観が明確になる。

消費者に農業の本当の価値

がしっかり伝わっていないのではないかと感じる。農業者一人一人が価値を伝えていく。これだけ距離があいてしまった社会では、絶対的に私たちがやらないと次のステップに進めない。

大会議案の実践方針に何をやるかが書かれているのは本当に素晴らしい。是非、これを色々な人と手を組んで実現できたらいなというのを改めて思っている。

最後に一言

550万人とつながるという取り組みについて、全道各地青年部また女性部、本当にたくさん取り組みをしている。

JAグループ全体でその取り組みを広げていき、私たち青年部、女性部は、みなさんと一緒にやってみるので、頑張ってください。

平成27年度コンプライアンス研修会



講師の長縄道弘次長

2月19日に、酪農振興センターにて、JA宗谷南と子会社（株）アグリサポート枝幸を対象に、コンプライアンス研修会が実施されました。業務の都合もあるため、16時から18時からの2回に分け実施し、65名の出席がありました。講師はJA北海道中央会旭川支所の長縄道弘次長が務めました。

道内JAのH20年～H26年の不祥事発生状況は、H20年をピークとして減少してきているが、依然不祥事は無くないというので、不祥事発生動機として「不正を犯す三大要因として、不正を犯す動機」の存在、「不正を犯す理由」の3つを挙げ、それぞれ組織全体で対応し、不祥事未然防止対策に取り組んで欲しいと話がありました。

次に、マイナンバー制度が始まったことによる個人情報保護法対応の徹底と云うことで話があり、全国的に個人情報保護法違反又は法違反のおそれのある事案は、H17年以降増加傾向にあるそうです。発生原因を分類別に分けると、H25年においては紛失、事務上のミスが発生割合の大部分を占めているとわかりました。最後に、個人情報流出など、不祥事が発生することにより組織の信用・信頼が大きく損なわれることに繋がるため、コンプライアンスを遵守するよう職員全員が再確認し、研修会を終えました。

宗谷南乳改・乳検合同研修会



宗谷農業改良普及センター
戸叶 吉昭氏

3月16日、うたのぼりグリーンパークホテルで宗谷南乳改・乳検合同酪農講習会が開催され、酪農家関係機関40名が参加しました。今年度は「おいしい牧草と健康な牛づくり」をテーマに宗谷農業改良普及センター戸叶吉昭氏より講演を頂きました。

講習会では、低カルシウム血症対策として乾乳期や育成期のカルシウム摂取不足と低カルシウム血症発生との関係を調査した事例が発表されました。乾乳前期と育成牛に飼料用タンカを自由採食させ嗜好性を評価し、嗜好性の低かった牛群では乾乳牛や育成牛にカルシウムの高い飼料が給与されていて低カルシウムの発生が少なかったことに対し、乾乳前期に嗜好性が高かった牛群では低カルシウムが嗜好性が高頻度も高く、育成牛の嗜好性が高かった牛群では低カルシウムが時々発生し、死産も多かったことが確認されました。

飼料用タンカに嗜好性を示した牛群に給与を続けたところ、低カルシウムの発生が減少し、除籍牛や死産も減少。個体乳量増加や空胎日数の短縮など生産性向上効果も確認されたので、カルシウムが不足している牛群にカルシウムを給与することで低カルシウムが予防できることが報告されました。また、スラリーの春散布がサイレイジ品質に及ぼす影響について報告され、春にスラリーが施用された圃場では収穫時にもスラリーが原材料に付着しているサイレイジに混入し、タンパク質やカリウム含量が上がり発酵品質は低下することが確認されましたが、ギ酸添加により溶解性タンパクが下がり発酵品質が改善されたことが報告されました。

参加者はメモを取り、良質乳出荷、経営安定のために有意義な講習会となりました。



宇都宮賞受賞

3月1日、札幌パークホテルにて第48回宇都宮賞の表彰式が行われ、歌登地区の内田喜久男さんが表彰されました。

宇都宮賞は、「酪農経営の部」・「酪農指導の部」・「乳牛改良の部」で構成されており、内田さんは乳牛改良の部で表彰されました。

内田さんは、昭和52年に実家の酪農に従事し、当時から乳牛改良に対し研究熱心であり、地域の先輩、農業改良普及センターなどの指導や助言を忠実に実践・検証する事で、当時1頭当たり乳量が4,000kg台だった平均乳量を10,000kgを超える牛群へ成長させ、年間乳量が20,000kgを超えるスーパーカウを現在までに4頭輩出している他、平成17年5月の遺伝子評価(雄)においてNTP1位にランクするなど、7頭の検定済み種雄牛を生産しています。



平成27年の遺伝子評価においては、牛群全体のNTPの平均値が+1.897で上位1%にランクインし、昨年の第14回全日本ホルスタイングランプリにおいては、優等賞に入賞するなど優秀な成績を収めていることが、今回の表彰につながりました。

また、酪農経営の部では、幌延町の無量谷稔さん、酪農指導の部では、豊頃町の竹山幸雄さんが表彰されました。



第14回全日本ホルスタイングランプリ
5部 優等賞
ハッピーライン アメーzing エッセ号

宗谷南部

指導農業者・農業士会総会

3月23日、酪農振興センターにて、宗谷南部指導農業者・農業士会の総会が行われ、関係者ら20名が出席しました。会長の円丁氏(猿払村)は、宗谷南部において、農業者が増えてきたことについて、「大変喜ばしく思う、総会後の意見交換会では活発な意見を述べてほしい」と挨拶し、開会しました。

昨年の研修会や、SOYALキズ☆カレッジでの意見交換会などの事業報告や、本年度の事業計画など全ての議題が承認され、総会は無事終了しました。総会終了後は、当組合の向井地組合長を講師に招き、「宗谷酪農の今後の展開方向」について講演し、昼食をとりながら、意見交換を行いました。

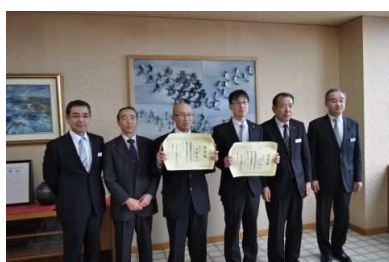


また、2月18日札幌全日空ホテルにて、北海道指導農業者・農業士の認定式が行われ、昨年引き続き、枝幸町からは乙忠

部地区の(株)エルムデールファーム代表 辻 裕三さんと風烈布地区の高橋壮治牧場の高橋慶大さんが北海道農業者として認定を受けた2名も参加し、総会終了後に、村上町長の元を訪れ、「将来を担う若手のリーダーであり、酪農業の中核として頑張つて頂きたい」と激励を受け、辻さんは、「地元の方々に酪農に目をむけてもらえるよう頑張ります」、高橋さんは、「先輩方の話や研修会など様々な勉強を重ね後輩に伝えていくよう精進します」と抱負を述べ認定報告をしました。

昨年の3名の北海道農業者認定者の誕生に続き、今年も認定を受けられた若手農業者がいることはとても誇らしい事だと思えます。

認定を受けられた方々の益々の発展を願いますと同時に、辻さんや高橋さんに続き、枝幸町酪農家の皆様から新たな北海道農業者が誕生することを願います。



中央右 辻 裕三さん
中央左 高橋慶大さん

新採用職員紹介



藤原 洸 (ふじわら つよし)
出身地: 枝幸町 (28歳)

この度、経済部油脂燃料課に配属になりました。これまで先輩方が築いてこられた宗谷南農業協同組合の歴史と伝統を大切に、職員として名に恥じぬよう、努力して参ります。
どうかご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。



木村 大地 (きむら だいち)
出身地: 雄武町 (19歳)

この度、酪農生産部乳牛改良課に配属になりました。まだまだわからないことだらけですが、上司の方々にご指導して頂き、一日も早く仕事と酪農家さんを覚えられるように頑張ります。
たくさんご迷惑をお掛けするとは思いますが、これからよろしくお願い致します。

内部監査室 監査室長
石川 利明 (いしかわ としあき)
(前アグリサポート枝幸 取締役)



2月・3月末退職者のお知らせ

経済部 生産資材課 生産資材課長 加藤 徹

内部監査室 監査室長 橘井 茂樹

経済部 Aコープ係 佐藤 郁子
畠山 喜美枝
山上 樹里

宗谷南酪農ヘルパー利用組合 米田 徹
米田 恵美

今まで大変お世話になりました!

編集委員
浦高森滝川伊村
谷本川口合藤田
正等忠直直太
憲 幸也樹良

